

NTT品川TWIN S

NTT SHINAGAWA TWINS

電電公社がNTTとなった翌年1986年に竣工したこのビルは、日本における本格的インテリジェントビルの第1号と評価された。事務棟と、主にデータ通信装置を収容するデータ棟の2棟で構成されている。新形ビル電話などの通信システム、オフィスオートメーションシステム、ビルディングオートメーションシステムなどを採用している。

建物名称:NTT品川TWIN S
所在地:東京都港区港南1-9-1
敷地面積: 30 422.41m ²
建築面積: 9 420.69m ²
延床面積:128 292.47m ²
構造規模:オフィス棟 地下2階 地上14階 階屋付、SRC造 一部RC造 S造
データ棟 地下2階 地上12階 階屋付、SRC造 一部RC造
共通棟 地下2階 地上1階 (駐車場は地下3階)、RC造 一部SRC造 S造
軒高:オフィス棟 58.275m
データ棟 57.375m

テレコミュニケーション

Telecommunications

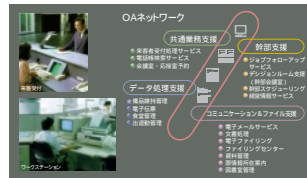
さまざまなネットワークやデジタル端末に対応するデジタル方式のビル電話で、ダイヤルインをベースにした多彩な電話機能、音声蓄積・構内文書通信などの機能を備える。また、映像系システムでは、社内CATV、テレビ会議システムが導入されている。



オフィスオートメーションシステム

Office automation system

光LANと、ワークステーション・ファイルステーション・OAコンピュータ・プリントステーションなどのOA機器によって構成される。経営意思決定の支援、事務作業の効率化と質的向上などをめざし各種の機能を備えている。



ビルディングオートメーションシステム

Building automation

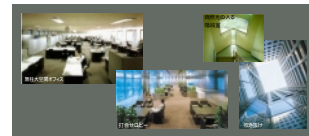
空調、照明、エレベータ、防災、防犯設備やエネルギー管理など約16,000点の項目を各種センサ、コンピュータなどで計測・制御し、快適なオフィス環境、省エネルギー、ビル管理の効率化、信頼性の確保などを支える。また、電算機室用空調系統の監視・制御システムは二重化し、信頼性を高めている。



環境プランニング

Environmental planning

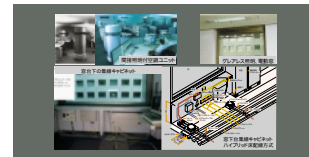
創造的・知的生産の場として、快適で働きやすい環境がより一層求められたため、レイアウト変更が容易な無柱大空間とした。また、自然の光と風をオフィスに導き、省エネルギーにもなる開閉可能な窓と吹き抜け、自然光の利用で避難が容易な階段、余裕と休息を生むトークルーム、セキュリティ向上のため集約したお客様対応ゾーンなど、オフィスワークをサポートする多様な空間を用意している。



建築システム

Building system

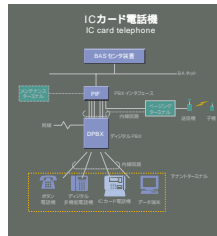
ビルのインテリジェント化に伴い、通信・OAシステムやOAオフィス環境などを支えるシステムが必要となった。フレキシビリティ・安全性・快適性をめざした可動間仕切りシステム、配線システム、オフィス内の発熱の増加に対応する付加空調ユニット、節電形のグレアレス照明器具など、各種のシステムを企画・開発した。



ICカード電話機

IC card telephone

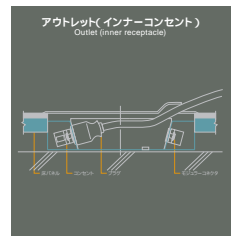
タッチパネル機能付大型液晶表示部を持ち、デジタルPBXを介してBASと接続される。ICカードのメモリを用いてテナントの簡単な建築平面図を表示しながら、温湿度計測値表示・設定値変更、機器の発停、スケジュール変更、施解錠、会議室予約などが容易に行える。



複合配線器具

Hybrid wiring instruments

簡易二重床内に布設された配線システムに容易に接続が行えるように開発した配線取り出し口により、端末機器の増設や移転などに柔軟かつ効率的に対応できる。簡易二重床にフラットに収まり、電力・電話・情報系のアウトレットを必要に応じて組み合わせて利用できるものである。



インテリジェントビル設計計画ガイドブック

Intelligent Building Design Plan Guidebook

企業経営の視点に立ったインテリジェントビルの有効性の検討や、設計・建設におけるインテリジェント化への対応が求められた。このような要請に応じて、インテリジェントビルに関する情報を豊富かつ簡潔にまとめたガイドブックを1987年に作成し出版した。